



2003年事業報告書

特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター



SABAY TAYOとは、現地語で「一緒に行こう」の意味

活動地域の現状	p. 2-3
ジェネラルサントス(南部ミンダナオ)での活動(里親・給食)	p. 4-5
パヤタス(首都圏のゴミ処分場)での活動(医療・職業訓練)	p. 6-7
フェアトレード支援活動(マニラ&日本)	p. 8-9
サンイシロ(リサール州山村)での活動(山村教育)	p. 10
スタディツアー	p. 11
国際理解教育活動(日本・マニラ)	p. 12-13
事務局活動(日本・マニラ)	p. 14

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-20-11 NPOプラザなごや2F
TEL&FAX 052-582-2244! E-mail info@ican.or.jp
ホームページ <http://www.ican.or.jp/>

ジェネラルサントス

ミンダナオ島の南部にあるジェネラルサントス市は人口41万人、世帯数86千、 バランガイ(行政単位)数26の地方都市である。平均としての収入は多いが、貧富の差が激しい。

イスラム系武装勢力の影響を受ける地区にあり、情勢は不安定で、世帯の約半数が貧困層だと言われている。

貧困世帯は、一般に子沢山で、子どもが働くことで何とか生計を維持している。仕事は漁業・農業・肉体労働など低賃金の期間労働が多く、収入は不安定である。子ども達が十分な教育を受けないまま成人し、次の世代は更に貧困になるという悪循環にある。

この地区において、貧困や民族を理由に社会から阻害されている家庭の子ども達を対象に、教育を受けられるように、里親(通学)支援と給食支援を実施している。



パヤタス

マニラ首都圏ケソン市郊外のパヤタスには、ケソン市のゴミが集積し巨大なゴミの山と化した処分場がある。分別されないまま野積みされたゴミの山からは、ゴミの自然発火による煙や有毒ガスが立ち込め、有害な物質を含むと思われる黒い水が流れ出しており、周辺地域は劣悪な居住環境にある。

ゴミ山の周辺には約1万人が生活し、二千人以上がここで回収したごみを近くの廃品回収業で生計を立てている。中でも、ゴミ山に隣接するルパン・パガコ地区の住民は、経済的に非常に困窮した生活をしている。

ルパン・パガコ地区周辺の住民を対象に、医療・栄養面を改善する医療支援と、ゴミ拾いに暮らしからの脱却を目指す職業訓練事業、訓練で得た技術を収入につなげるフェアトレード支援事業を行っている。また、周辺の子どものための交流を促進し、健全育成を目指す青少年交流活動(サバイタヨ)も実施している。

サンイシロ

サンイシロは人口の半数を先住民族(ドゥマガット族)が占める、リサール州の山村である。電気や水道等のインフラストラクチャーのないこの村で、住民は、主に水田や焼畑で米や野菜を作って生計を立てている。しかしながら、米などの収穫は一家を支えるのに十分ではないため、住民の一部は違法な森林の伐採に協力することで収入を補っている。

村には病院がなく、住民は病気になるとジブニ - で2時間ほどかかる町の病院まで行かなければならない。先住民は、経済的に貧しく、学校教育を受けていないことについて劣等感を感じているが、自分たちの村を愛し、村での自分たちの生活を少しでも良くしたいと努力している。

この地区においては、先住民が誇りを持って生きられるように、主に、教育面の支援を行っている。



日本での活動 (活動地域の人々想いを共にするために)

フィリピンでの活動地域に生きる人々への支援を呼びかけると同時に、アジアで経済的に厳しい環境にある人々の生活、児童労働の実情、南北格差や貧困の現状などの諸問題について、多くの人と共有し、理解を深めるために、日本において、以下の活動を行っている。

- ・国際理解の増進(学校訪問、国際理解イベントへの企画or出展)
- ・活動地域の人々の製作品の販売(フェアトレード)
- ・人材育成(現地研修や研修生の受入れ)
- ・スタディツアの企画と実施
- ・事務局での作業(経理、広報、報告作成)

2003年は、NGOのスタッフを目指す研修生の受入れ、学校での参加型授業やフェアトレード品販売等のフィリピンの人々を支える活動を通して、若い世代への国際理解教育に注力した。また、多くの協力者・ボランティア・学校・店舗にご協力いただき、国内での活動が広がった。



里親(通学)支援事業

(1)実施内容

ジェネラルサントス市に暮らす経済的に貧しい家庭の子ども達に、学費・学用品費・制服代・通学交通費・医療費等を提供することで、子どもたちの通学を支えた。現地団体(L&L)のソーシャルワーカーや事務員が、家庭訪問やミーティングを通して、衛生・栄養や教育面の生活指導をおこなった。また、収入改善支援の充実を目指して、他の団体とのミーティングを行い、準備を始めた。

(2)実績 奨学生:150名

4~5月:学校への登録、学用品・制服の配布等、
通学準備

年4回:生活指導ミーティング

年2回:家庭訪問調査・コンサルティング

随時:子どもへの補習指導、医療支援と健康相談

(3)事業費支出 合計 1,733,576円

L&Lへの送金額(779,000ペソ = 1,715,741円に相当)

内訳 (2003年4~12月まで)

学費・制服代: 344,215.20ペソ (758,131円)

交通費・スナック代 14,284ペソ (31,460円)

医療支援 30,084.05ペソ (66,260円)

ミーティング 91,576.50ペソ (201,696円)

L&L運営費 59,766.80ペソ (131,636円)

L&L人件費 155,000.00ペソ (341,386円)

合計 694,826.55ペソ(残り84,173.45ペソは、04年1~3月で支出見込)

渡航時交通費

17,835円



里子からの手紙



里子一同でのミーティング



文具の受取り



弟と一緒に

4) 次年度の課題 高校を修了しプログラムを卒業する里子を、どのような形でサポートし、自立支援につなげていくかを検討する。

里子の家庭の収入改善支援を、より効果的な形で実施できるよう検討する。

給食支援事業

(1) 実施内容

ジェネラルサントス市の、イスラム教徒や少数民族の子ども達が多く通う学校で、給食を実施した。栄養状態のよくない子ども達に、一週間に一回、栄養価の高い食事を提供し、栄養状態や健康面の改善と就学率の向上を図った。

給食は、校長・教師・保護者が協力しておこなった。年に二回ほど、DOH(フィリピン保健省)の栄養換算表によって子どもの栄養状態を評価した。



(2) 実績

- 1) P.kindat小学校 対象児童数: 50名
実施日: 3月(14,21)、7月(17,22,25)、8月(1,6,8,12,15,19,21)、9月(1,4,10,11,16,25)、10月(1,3,16)、11月(11,27,28)、12月(1,3,9,11)
 - 2) Bawing小学校 対象児童数: 100名
実施日: 1月(9,16,23)、2月(6,13,20)、3月(7,17,20,28)、10月(17,24)、11月(14,21,28)、12月(5,12)
 - 3) Sarif Mucsin小学校 対象児童数: 120名
実施日: 1月(6,13,21,27)、3月(18,20,24,31)、4月(3)、9月(11,16,24,30)、10月(7,14,21,28)、11月(5,11,24,27)、12月(4,11,15,17)
 - 4) Upper Tambler小学校 対象児童数: 100名
実施日: 1月(10,17)(報告待ち)
 - 5) Dadiangas East小学校 対象児童数: 50名
実施日: 1~3月(報告待ち)
- * Upper Tambler小学校やDadiangas East小学校は、校長の交代や報告の遅れにより、7月以降の実施が停止している。

(3) 事業費支出内訳 学校への送金額の合計(101,750ペソ = 216,438円に相当)

食費:	62,608.55ペソ	(133,178円)
郵送費や資料作成代:	4164.75ペソ	(8,859円)
合計:	66,773.30ペソ	

* 残りの34,976.70ペソは報告待ち。

(4) 次年度への課題

給食の実施状況やモニタリング充実、効果の的確な測定
報告の作成方法をマニュアル化し、校長が交代する際の引継ぎをスムーズにする。
ニーズ調査(支援校の交代、校舎建設、安全柵の設置など)

医療支援事業

(1) 事業内容

パヤタスごみ処分場周辺で地域住民の健康を高めるために、対象地区での医療支援事業を行った。看護師が常駐するコミュニティケアセンターを開設し、従来から行ってきた無料診療、栄養改善などのプログラムの改善を図ると共に、予防接種、寄生虫駆除、コミュニティヘルスワーカー養成などを実施した。なお、これまで共同で活動してきたSALTとの提携が5月までで終了したのに伴い、住民薬局の支援が終了した。また、11月からはJICAの草の根技術協力(支援型)から協力を得られることとなった。

(2) 実績

1. コミュニティケアセンターの開設・運営

看護師が常駐することで地域住民からの相談が増えた。必要に応じてコミュニティ内を訪問し、無料診療や検診、予防接種などに誘った。

2. 無料診療(1~10月:土、11~12月:火,土)

54回実施、のべ患者数1490名(内,子ども1014名)

* 呼吸器系の病気が多く、子どもの寄生虫や加齢による病気も見られた。

3. 栄養不良児のための給食と母親学級

のべ102名の子ども(6ヶ月から3歳未満)に、週3~5回、栄養価の高い補給食を提供した。大部分の子どもに栄養状態の改善が見られた。また、月に一度、母親学級を実施し、保健や栄養への理解を深めた。

4. 外部診療(地域外の医療機関での交通費や検査費)補助: 患者12人(子ども8人)

5. 予防接種

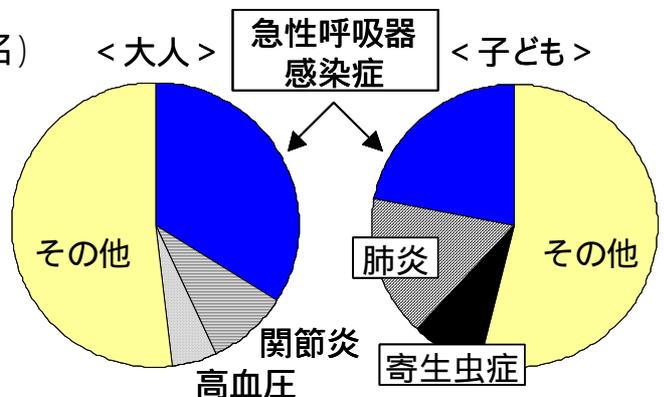
三種混合、経口ポリオ	13人
はしか予防ワクチン	12人
破傷風トキソイド(妊婦等)	22人
ビタミンA供給	80人

6. コミュニティヘルスワーカーの研修:

14人の研修生を対象に、検温、体重測定、呼吸数の取り方、住民とのコミュニケーションの取り方を指導した。研修生達は、学んだ知識を無料診療時に講義などを行った。

7. 医療NGOや政府機関とのネットワーク作り

パヤタス地区で医療プログラムを行っているNGOや政府機関と連携するためのネットワーク作りを行った。ケソン市保健局と協力関係を作ることができた。



(3) 事業支出内訳

医療支援 (JICA草の根分を除く)

無料診療 (医師・看護師等)	160,431円
栄養改善食費等	163,851円
ヘルスワーカー人件費等	54,480円
現地スタッフ人件費	187,294円
外部診療補助	23,816円
ケアセンター賃借料	49,413円
水質調査・雑費等	34,134円

合計 673,419円

JICA草の根分

無料診療 (医師・看護師等)	72,108円
栄養改善食費等	20,576円
ヘルスワーカー研修/活動費	6,732円
現地スタッフ人件費	389,976円
薬代 & 外部診療補助	7,935円
ケアセンター備品/賃借料	171,570円
渡航費/事務所賃借料	82,374円
作業所賃借/訓練費/備品等	6,831円

合計 758,112円

(4) 次年度の課題

医療支援を継続するための資金や人材を、いかにして安定供給するかを検討する。

職業訓練支援事業

(1) 事業内容

パヤタスごみ処分場周辺の住民を対象に、ぬいぐるみやハンディクラフト等の製作技術を身につける職業訓練を行った。危険なごみ処分場で働かなくても、経済的に自立することを目指して実施した。



(2) 実績

洋裁、ぬいぐるみ、鉤針編み、キャンドル、アクセサリなどの訓練を26回行い、のべ242人の女性が訓練に参加した。講師は作業所メンバーや日本人インターンが無償のボランティアとしておこなった。作業所の核として活動している女性たちには、技術の向上を目指す、公的機関の無料の職業訓練セミナーを紹介、参加してもらった。

実施日

洋裁 1/31、2/8,15、8/2、10/24、11/14

ぬいぐるみ 1/14、7/19、9/5、12、19、26、10/3、10、11/6

アクセサリ 3/29、5/24、6/7、14、21

鉤針編み 1/18、25 キャンドル - 2/7、21、8/9、12/6

鉤針編みの研修に参加していた女性が一人、作業所メンバーに加わった。

(3) 事業支出内訳

トレーニング	133,233円	おやつ・雑費	6,044円
米代	4,872円	材料費	5,353円
		合計	149,502円

(4) 次年度の課題

訓練に参加した住民でグループを作り、小規模のビジネスを始められるよう支援し、より多くの人たちが、ゴミ拾いに経済的に依存した生活から脱却できるよう、サポートする。

フェアトレード事業

(1) 事業内容

パヤタスでは、職業訓練で技術を身につけた女性たちが住民グループを組織し、自立のための商品を製作する作業所の運営や、地域での保健衛生に関わるボランティア活動をおこなっている。この作業所で作られた製品をマニラや日本で販売、女性たちの自立を支援するフェアトレード活動をおこなった。

女性たちは、材料の仕入れ・製品の品質管理・検品と買い取り・販売など一連の工程に関わり、自分たちの課題を提起的に話し合うミーティングもおこなった。

今年は、当法人のフェアトレードと関連して、パヤタスの現状と女性たちの活躍ぶりをより多くの人に伝達した。そして、多くの人たち、特に学生に、フェアトレード販売をおこなう機会を提供し、彼らが主体的に国際協力に関わるきっかけを作ることができた。



只今、検品中！（作業所にて）



高校での販売（東邦高校）

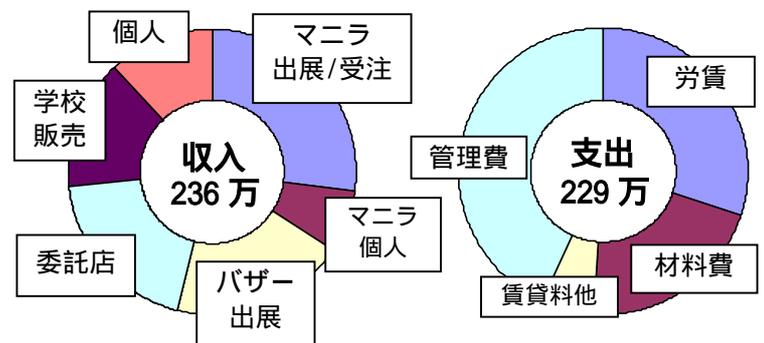
(2) 実績

< 収入 >

2003 年は中高生や大学生の学園祭での販売、委託店での販売を中心に日本での販売が伸びた。マニラでもバザーや企業からの受注などで売上を伸ばした。2002 年に比べ、マニラのデパートでの販売がなくなったため、全体の売上はやや減少した。

< 支出 >

労賃(パヤタスの女性)	645,099 円
材料費	466,096 円
雑費・賃借料・水光熱費	52,839 円
調整員費	92,239 円
その他支出	76,319 円
事業費合計	1,332,592 円
管理費(日本・マニラ)等	957,620 円
合計	2,290,212 円



フェアトレードの収支

(3) 次年度の課題

製作者の技術の向上、新製品の開発、販路拡大、福利厚生(社会保障制度の加入)などが課題である。また、フェアトレード製品の収益を向上させ、医療や職業訓練の運営費用を賄えるようにしていきたい。

フェアトレード販売協力者の声(抜粋)

「フェアトレード」という方法でフィリピンの人々の自立を助けることにつながり、とても充実した日々をおくれました。

本当に良かったと思います。

(三陽高校 大坪祐馬 さん)

パヤタスのゴミ山には、たぶん多くの日本製品が捨てられ、その上で暮らす人がいます。ちょうど先進国と発展途上国の関係そのままのようにも思えます。

売上金が、少しでも役に立ちますように

(石神井高校のお客さん)



ICANのブースのお手伝いは初めてだったので、少しドギマギしました。話しかけるタイミング、内容、商品の勧め方、なかなか難しかったです。

そんな中、私たちの話に共感してくれたり、クマさんたちを本当にかわいいと言って買っていってくれる人がいると、とても嬉しかったです。(渡辺沙織さん)



私は去年の8月にスタディツアーへ行きました。帰ってきてすぐは、意識も高く、ゴミを減らす、資源を大切にすることを心掛けていました。しかし、一年がすぎ、私の意識は豊かな日本の生活にどっぷりとはまってしまいました。

椋山大学祭のお手伝いをして、そう強く感じました。それに気付けた点で良かったと思います。

(丹羽智美さん)

以下のようにたくさんの団体・学校にご協力をいただきました。

フィリピン大学、岡崎北高校、亀山高校、向陽高校、三陽高校、高蔵高校、長生高校、東邦高校文化祭、豊明中央小学校、名古屋西高校、日本福祉大学、光が丘高校、石神井高校、立命館アジア太平洋大学、ECC、EVANS、オゾン、コズミックベース(風"s)、そらねこや、茶運亭、AKO、ALAYASYAバザー、EDDIE、GAILE、ST・JOSEPH(制服)、YWCA、宝泉寺、アユス仏教国際協力ネットワーク、円立寺足利東ロータリークラブ、NPO静岡青年団、ドリーム、ふれんどしっぴあじあ、まにら新聞、ファームステップ、WISH、依田高校、穂の国ネットワーク、東海理化、トレードフェア、ひらき座、ぶなの家、砂田橋学童椋山大学、SMメガモール、アルシュ、ワイルドライフ、金城大学、高蔵寺教会、MJS、MATAHIMIK、アテネオ大学、UPICOB、DTI、LTO、アジア保健研修所、CLSC、アルシュ、南山大学WISH

また、白子夏祭り、国際ふれあいフェスティバル、あいち生協祭、南山教会でのチャリティコンサートなど39のイベントに参加しました。ご協力を頂いた団体・個人の皆さん、イベントにご参加くださった皆さん、フェアトレード製品をご購入くださった皆さん、本当にありがとうございました。

山村教育事業

(1) 事業内容

山岳農村サンイシロにおいて、初等教育支援と奨学金支援をおこなった。この地区に定住している先住民(ドゥマガット族)は、町の住民と接触しながら生活を営んでいる。しかし、経済的な格差や、読み書きができないことなどから、先住民は、町の住民に対して劣等感を持っており、町の住民と対等な立場で自信を持って生活することが困難な状況にある。この教育支援は、先住民の子どもたちが、どのような環境にあっても自尊心を保ち、堂々と生きていけるようになることを目的としている。

(2) 実績

プレスクール(幼稚園)の運営を支援。
小学校就学前の子どもたち 12 人が学んだ。

ハイスクールに通うための奨学金をハイスクール1年生から3年生まで9人に支給した。



サンイシロの子ども達



奨学生を含む地域のハイスクール生

(3) 事業費支出内訳

・ハイスクール奨学生支援 (学費・制服・文具)	58,654 円
・プレスクール	38,120 円
合計	96,774 円



村の小学校にも学用品を提供しました。

(4) 次年度の課題

住民のニーズにより的確に対応できるプログラムを検討するため、適切な人材を確保して、調査をおこなう。

スタディツアー事業

(1)実施内容

フィリピンでの支援活動に参加し、草の根の国際協力について学ぶスタディツアーを実施した。参加者は、サンイシロやパヤタスを訪問し、住民のお宅へのホームステイ、医療支援や教育支援への参加、住民や子ども達との交流会等を通じて、現地住民のおかれた立場や国際間の問題について理解を深めた。

ツアーの参加者には、帰国後に、住民の抱える諸問題を自分の問題として捉えて行動できるように働きかけた。

(2)実施形態 当法人が企画、旅行代理店に委託して実施

(3)実施時期と参加者(引率者を含む)

第一回:2月 6名参加 第二回:3月 7名参加 第三回:8月 10名参加

(4)事業費の内訳

交通費	76,316円	
食費	91,426円	
宿泊費	86,373円	
謝礼・調整員費	16,538円	
スタッフ渡航費	87,896円	別途、管理費として、
合計	358,549円	768,942円を使用(法人税、税理士謝礼を含む)

パヤタスの子ども達との遠足

マニラインターン 園原ゆりえスタディツ

アー3日目、私達はジープニーを貸切って、子ども達、お母さん達、ツアー参加者と一緒に動物園へ行きました。子ども達は本当に嬉しくて嬉しくてたまらないといった感じで、前日はしっかりとお風呂に入り、一帳羅の服を着て、しっかりと名札をつけて、作業所にやってきました。

動物園での子ども達の反応は本当に愛らしくて、私が幼かった時のことが思い出されました。子ども達は、一つ一つの動物を念入りに見て、一つ一つに反応をしていました。

早く遊ぶために詰め込むようにしてご飯を食べる子、自分の昼食を私に分けてくれるような子、小さい子の面倒を率先してみる子、昆虫集めに夢中になってる子などなど、この日は、私が今まで知らなかった子ども達の多くの面を知ることができた一日となりました。

子ども達にとって思い出深い遠足になって、本当に本当に良かったと思います。



国際理解教育事業

(1) 事業内容

日本の学生や一般の方に、国際協力に関心を持ってもらい、理解を深めてもらうことを目的に、フィリピンで経済的に厳しい環境にある人々の現状、草の根の国際協力、経済格差、貧困の問題等を共有した。講演・参加型ワークショップの実施、写真等教材の貸出、訪問受入など、個々のニーズに柔軟に対応して様々な形態を取り、参加者が立体的に考えながら課題にアプローチできるよう、サポートした。また、現地の子ども達へのカードや文具の発送もおこなった。

フィリピンでは、パヤタスゴミ処理場周辺の児童を対象に、創造力・表現力を養い仲間同士の絆を深めるサバイ・タヨのプログラムを実施した。

(2) 活動実績

() 学校訪問授業

小学校～短大で10回実施

() 事務所訪問受入 15名/月程度

() 自主企画

国際理解講座、チャリティーコンサート、
現地スタッフ帰国報告会など8回実施

() セミナー等への講師派遣10回実施

() インターン・NPO研修の受入

() 教材(写真・ロールプレيشナリオ・パネル などの貸出

() フィリピンの子ども達へのカードの送付 (7・12月の二回で、1500通程度)

() フィリピンの子ども達への文房具の送付 (ダンボール17箱)

() サバイタヨ(パヤタスの子ども達の 健全育成活動)

() パヤタスでの現地訪問者受入れ



カード支援・文具支援も充実しました



神戸小でのワークショップ

講座の内容例:

- ・フィリピンの現状とICANの活動を報告、質疑応答をおこなう**講演形式**
- ・発展途上国の医療の現状を紹介、参加者同士で意見を交換しあって、問題意識を深め、できることを考える**参加型形式**
- ・フィリピンの農村やパヤタスの医療の現状を疑似体験するシミュレーションゲームをおこない、感想や意見を交換、問題意識を深める**体験と参加型を組み合わせ形式**

2003年の特記事項: 2002年に製作したフィリピンの貧しい人々がどうして都会に出て暮らすのかを疑似体験するシミュレーションゲームやロールプレイ(寸劇)のシナリオを、今年度は、JICA中部、学校、名古屋 NGO センター、愛知県国際交流協会、国際協力の学生グループ「WISH」などとの協働により、子供たちのニーズにあわせて、「教育」「医療」などの特化したテーマを学べる形に発展させた。

： 神戸小(子供を学校に通わせたい家族を体験、小学校の先生方と協働)
 日本赤十字短期大学(フィリピンの医療事情を体験)
 代田中学(職業訓練を体験、愛知県国際交流協会(AIA)と協働) マニラでは、現地訪問者を受入れ、現地の実情をより多くの人と共有するとともに、パヤタスの子ども達を対象にしたせ青少年活動「サバイタヨ」(みんな一緒)を実施した。

代田中學生を対象とした授業(AIA との協働)

AIA の広い空間を生かし、農村の人が年に出稼ぎしてパヤタスでゴミ拾いをするまでの過程を疑似体験した。食事は本物のフィリピン料理を使い、文化や生活にも関心をもってもらう工夫をした。奨学生支援や職業支援も取り入れ、NGO からの学費の受理やぬいぐるみ作りのワークショップも体験した。

参加した生徒からは「今まで身近にある貧しい国のことなんて考えたことがなく、フィリピンでは職業を探すのがとてもたいへんで、食べれない日もあるなんて知りませんでした。これからは食べ物を大切に、他人のことを思って行動したいと思います」という感想が出た。

サバイタヨ(11月23日、似顔絵描き)

日本で長い間美術の先生をされていた岡田さんを講師に、絵の具で自画像を描きました。

ひとりひとりに鏡を渡して自分の顔を描きましたが、みんな自分の顔は描き慣れてないらしく、はじめはとまどっていました。しばらくたつと、絵の具を使って色を混ぜて新しい色を作ったり、自分の顔の周りに色々な物を付け足したりして楽しんでいました。

出来た絵は子ども達が思い出として家に飾るために持って帰りました。



似顔絵を描く子ども達

(3)事業支出

学校訪問	55,647 円	文具送付	85,500 円
報告書・教材作成・貸出	253,684 円	マニラ訪問受入	17,579 円
カード送付	3,090 円	サバイタヨ	2,949 円
支出合計	418,449 円		

事務局の活動報告

1. 日本事務局

(1) 実施内容

厳しい環境にあるフィリピンの子供達や家族の自立支援と課題の共有のために、ICANの事業全般に関する活動をおこなった。今年は有給スタッフが一人加わり、他団体と協調した国際理解教育などの面で活動の幅を広げた。実施内容は下記のとおり。

- ・フィリピンや日本の活動全般にかかわる事務および経理、報告書・会報の作成
- ・会員、協力者、一般からの問合せや訪問者への対応
- ・国際理解講座、学校での訪問講座、報告会、チャリティコンサートなどの実施
- ・フェアトレードの販売促進、在庫管理

・スタディツアー、インターン・研修生等の受入と研修(2)実施場所 ICAN日本事務所(NPOプラザなごや)、愛知県国際交流協会、他

(3)実施形態 有給スタッフ2名、理事5名、ボランティア50名、インターン4名で実施

(4)収支状況:決算書を参照

2. マニラ事務局

(1) 実施内容

パヤタスとサンイシロでの事業の実行、管理を実施した。マニラでの活動の充実と運営基盤の安定を図るために、現地法人格を取得した。

- ・プログラムの実施とモニタリング
- ・事業に関する事務、経理、報告の作成
- ・スタディツアー等の訪問者の受入

今年も、日本人のボランティア、インターン短期研修生を受け入れた。参加者は実際のプログラムの運営や、それに付随する事務

作業などを通し、NGOによる国際協力活動を学んだ。現地の活動は、ボランティアやインターンや短期研修生の人的資源を必要としており、参加者はプログラムの実施や地元住民との交流に大変貢献した。

2)実施場所 ICANマニラ事務所(ケソン市)、パヤタス、サンイシロ他

(3)実施形態 有給スタッフ3名、ボランティア2名、インターン3名、短期研修生1名

ボランティア: 田村さん、棚橋さん、

インターン: 佐藤さん、園原さん、安井さん

短期研修生: 江口さん

ありがとうございました。

(4)収支状況:決算書を参照

